

戸田康之さん『コミュニケーション』（7月25日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日のお話は、ろう児のコミュニケーション方法についてです。

現在、ろう学校の幼稚部で働いています。5月でも暑いですがね。子どもたちは水遊びが大好きです。学校の庭には大きな滑り台があります。その滑り台に水を流し、ウォータースライダーのように遊んで楽しんでいます。以前はホースを伸ばして水を流していましたが、水道代が高いこともあり出来なくなってしまいました。ほかの方法として、バケツに水を張り両手にバケツを持ち自分で運びます。滑り台の上から自分で流しセルフで滑っていきます。それはそれでいいのですが、友達と一緒に上がると、友達が水を流してくれるなど、様々な方法で楽しんでいます。

そんな時にろう児ならではのコミュニケーションを見かけました。女の子が2人で水を張ったバケツを両手に持って、一緒に滑り台の上に上がりました。2人とも両手にバケツを持った状態で、どっちが先に滑るかの話になりました。どちらも後に滑りたいようで、先に滑ってと言っていました。でも、その両手にはバケツを持っています。手は動かさせません。そこで見たものはろう児のコミュニケーションでした。その方法は、視線と首のみで会話しているのです。お互いに言いたいことを伝えて言い合いをしています。結局5歳の年長さんが年下に先に滑らせることに成功しました。自分も満足げにその後滑っていきました。それを見て、ろう児らしいコミュニケーション方法だなと思いました。手が使えなくても視線と首だけでやりとりができるなんて、これぞろうの子ども、眼の子どもですね。